

平成30年4月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成30年4月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

本事務所は、今年度も昨年度同様、所長の古町と奈良岡、籠利の三名体制です。皆様におかれましては、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

八戸市を活動拠点とし、日本フットボールリーグ（JFL）で活躍しているサッカーチーム「ヴァンラーレ八戸」。J3昇格を目指すJFLの2018シーズンが、3月11日に開幕しました。

昨シーズンは、J3参入要件の1つ「平均観客動員数2,000人以上」を初めて達成したものの、成績要件では、リーグ最終戦までもつれた末、「年間4位以内」にあと一歩及びませんでした。

今シーズンは、悲願のJ3参入を目指し、3月18日のホーム開幕戦、続く4月1日のホーム戦で勝利しています。

みなさまの応援がチームの力になります。『全<sup>ぜんりよく</sup>緑』でヴァンラーレ八戸を応援しましょう！

### ■ヴァンラーレ八戸

<http://www.vanraure.net>

#### ◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸 4月号 レポート

平成30年3月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

記事	概要
(1)	市庁に情報モニター（デジタルサイネージ）増設 ～市政を分かりやすく発信～
(2)	「八戸まちなか広場（マチニワ）」運営概要発表
(3)	イトーヨーカドー店内に「はちのへ情報コーナー」設置

## 【産業】

記事	概要
(4)	八戸せんべい汁ガイドマップ 4年ぶりリニューアル
(5)	しんぼり（菓子製造販売・卸業）と八商高生が共同開発 ～「チョコみみ」いかが～
(6)	マルヌシ（水産加工業） バリエティーに富んだ味付けサバ缶6種新発売

## 【地域】

記事	概要
(7)	難関資格「第一級陸上無線技術士」八戸水産高3年の佐々木さん合格
(8)	カナリア美声コンテスト全国大会 青森県ローラーカナリークラブが初優勝
(9)	八戸市水産科学館マリエント 氷の妖精「クリオネ」の展示始まる
(10)	おもちゃ作家・高橋さん 民話題材にからくり滑り台制作
(11)	南山デイリーサービスの高齢者見守り活動 米国の雑誌が紹介
(12)	JR八戸線最後の運行 キハ40系“引退”
(13)	館鼻岸壁朝市再開 早朝のハマに活気
(14)	県南地方の作家ら「南部菱刺し連絡会」発足 ～「南部菱刺し」を世界中に～
(15)	春を告げるウミネコ 蕪島に続々と飛来
(16)	「山上憶良短歌賞」に八戸高生5人入賞
(17)	2017年青森県人口 自然減過去最多9378人

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(18)	八戸特派大使の梶谷さん 国際芸術大使に選出 ～日本の美を海外に発信～
(19)	大相撲夏巡業「八戸場所」8月開催へ
(20)	ヴァンラーレ八戸 公式ファンクラブに八戸市議会の全議員が入会
(21)	ヴァンラーレ八戸 ホーム初戦白星

## 【行政】

記事	概要
(1)	<p><b>市庁に情報モニター（デジタルサイネージ）増設 ～市政を分かりやすく発信～</b></p> <p>八戸市は3月1日、市庁本館1階入り口付近と別館1階ロビーに市政情報モニター（デジタルサイネージ）を設置した。民間会社がモニターの管理・運営を行う広告事業を活用し、来庁者に市政に関するお知らせや市内のイベント情報などを分かりやすく発信する。モニターの大きさは縦型の42インチ。はっちや是川縄文館のイベント情報や屋内スケート場の建設現場の様子などを色鮮やかに映し出している。市は昨年8月、イトーヨーカ堂と地域活性化包括連携協定を締結しており、18日からはイトーヨーカドー八戸沼館店のモニターでも情報を発信している。</p>
(2)	<p><b>「八戸まちなか広場（マチニワ）」運営概要発表</b></p> <p>八戸市が7月21日のオープンを目指す「八戸まちなか広場（マチニワ）」の運営概要を発表した。マチニワは、屋根や壁がガラス張りの広場をイメージした施設。1階は吹き抜けで、オブジェ「水の樹」や大型ビジョンを配置、2階はデッキとなっている。開館時間は、路線バスの運行に合わせる形で午前6時～午後11時とし、イベントなどのスペースの貸出時間は午前9時～午後9時とする。休館日は設けない。食のイベントや休憩、バスの待合などの利用を想定。貸し出しは広場を幾つかのエリアに分け、時間ごとに料金を設定する。開館日までに、市民が参加するワークショップなどを通じて、具体的な利用方法を検討するという。</p>
(3)	<p><b>イトーヨーカドー店内に「はちのへ情報コーナー」設置</b></p> <p>八戸市とイトーヨーカ堂が締結している「地域活性化包括連携協定」の一環で、イトーヨーカドー八戸沼館店（鍬田明美店長）にこのほど、「はちのへ情報コーナー」が設置された。1階現金自動預払機(ATM)付近にあり、デジタルパネルやパンフレットを通して、買い物客に八戸の観光や生活情報を紹介している。除幕が行われた設置セレモニーでは、小林眞市長が「旬の情報を手に取ってもらえるようになっている」とPR。鍬田店長は「日々の買い物の際に立ち寄ってほしい」と呼び掛けた。</p>

## 【産業】

記事	概要
(4)	<p><b>八戸せんべい汁ガイドマップ 4年ぶりリニューアル</b></p> <p>八戸せんべい汁研究所（汁〃研）は、八戸せんべい汁を提供する店の情報や地図、南部せんべい料理などを載せた「八戸せんべい汁ガイドマップ」を4年ぶりにリニューアルした。今回の改訂では、汁〃研が2011年から実施しているせんべい汁や八戸の地域資源について学ぶ「八戸せんべい汁おもてなしアカデミー」の検定に合格した「おもてなしマイスター」がいる店舗の詳しい情報や、マイスターの一言コメントを紹介。店をより身近に感じてもらえるよう工夫した。八戸市内だけでなく、東京や大阪の店も掲載している。</p>
(5)	<p><b>しんぼり（菓子製造販売・卸業）と八商高生が共同開発 ～「チョコみみ」いかが～</b></p> <p>八戸市の菓子製造販売・卸業「しんぼり」と八戸商業高の生徒が、南部せんべいのみみ部分にチョコレートを掛けた新商品を共同開発した。若い人にも南部せんべいに興味を持ってほしいと、同校の生徒が商品を提案。チョコを使用しているが、塩味が効き、甘さを控えたことで、食べやすい味に仕上がった。パッケージのイラストも生徒が考案。かわいらしく、手にとりやすいデザインになっている。価格は300円（税別）。3月6日からしんぼり八食センター店で販売し、順次、取扱店舗を拡大する予定。</p>

(6) **マルヌシ（水産加工業） バラエティーに富んだ味付けサバ缶 6種新発売**  
 八戸市の水産加工業・マルヌシは、アヒージョやハバネロ、トムヤムクンなどバラエティーに富んだ味付けを楽しめるサバの缶詰シリーズ「八戸サバ缶バー」を発売した。味は津軽海峡の塩、ゆずこしょう、グリーンカレーも含めた計6種類で、脂の乗りが良い「八戸前沖さば」を使用。希望小売価格は1缶410円（税込み）。県内6店舗で販売し、八戸市内では、ぐるっと遊八戸駅店、「はっち」のカーネイリミュージアムショップ、八食センターの創季屋で取り扱う。

【地域】

記事	概要
(7)	<p><b>難関資格「第一級陸上無線技術士」 八戸水産高3年の佐々木さん合格</b>            青森県立八戸水産高情報通信科3年の佐々木空良さんが、取得が難しい「第一級陸上無線技術士」資格に合格した。試験は計4科目あり、昨年7月と今年1月に2科目ずつ行った。同資格を取得すると、放送局やさまざまな無線設備を操作することが可能になる。佐々木さんは昨年5月ごろから資格取得のための勉強を始め、参考書や過去問題を解いて試験に備えた。同校によると、在学中の生徒としては初の快挙で、全国的に見ても現役高校生が取得するのは珍しいという。</p>
(8)	<p><b>カナリア美声コンテスト全国大会 青森県ローラーカナリアクラブが初優勝</b>            ローラーカナリアのさえずりの美しさを競う全国大会「第67回国際ローラーカナリアクラブ連盟コンテスト」(1月27、28日・京都府)で、青森県ローラーカナリアクラブの齋藤清一会長＝八戸市＝、榎館隆幸さん＝同＝、熊野豊さん＝おいらせ町＝の3人が、団体戦で初優勝を果たした。ローラーカナリアは流麗な鳴き声を楽しむために品種改良されたカナリアで、低音で深みのあるさえずりが特徴。美しく鳴かせるためには交配が最重要となる。榎館さんは、全国の愛好家と鳥を交換して研究を重ね、当日は会場に美しい歌声を響き渡らせた。コンクールは飼育技術向上とローラーカナリアの周知を目的に、毎年開催されている。</p>
(9)	<p><b>八戸市水産科学館マリエント 氷の妖精「クリオネ」の展示始まる</b>            八戸市水産科学館マリエントで、オホーツク海などで生息している“氷の妖精”クリオネの展示が始まった。展示は今年で5回目。市内の小・中学校を対象とした「見てみたい生き物」の順位で毎回上位に入ることから実施している。展示室の特設水槽では、約30匹のクリオネがお出迎え。半透明の身体で泳ぐ神秘的な姿に、来場者が目を細めて見入っている。入場料は大人300円、高校生200円、小学生100円、65歳以上150円。時間は午前9時～午後5時。</p>
(10)	<p><b>おもちゃ作家・高橋さん 民話題材にからくり滑り台制作</b>            八戸市柏崎のみどり幼稚園の創立40周年を記念し、同市のからくりおもちゃ作家高橋みのるさん(58)が、特製滑り台を制作した。民話「山の背比べ」と十二支が題材の作品で、3月5日に同園に引き渡されると早速、園児の人気を集めていた。山の背比べは、階上岳と久慈平岳が背比べをし、岩手山と使いのワシが審判役を務めた、という南部地方の言い伝え。滑り台は初めての挑戦で、1年がかりで制作したという高橋さん。「楽しく遊びながら地域の昔話や十二支に親しんでほしいと、健やかな成長を願っていた。</p>
(11)	<p><b>南山デイリーサービスの高齢者見守り活動 米国の雑誌が紹介</b>            乳製品の宅配事業を手掛ける南山デイリーサービス(八戸市)が、高齢者世帯などを対象に実施する「お元氣確認サービス」が海外から注目を集め、米国最大の非営利団体「AARP」(旧全米退職者協会)が発行する雑誌「THE JOURNAL」の2018年度版に取り上げられた。同社によると、お元氣確認サービスは、スタッフが宅配業務でお年寄り宅などを訪問した際、声掛けや会話を通して利用者の様子を確認し、生活状況などを日報に記録する取り組み。南山社長は「お元氣確認サービスが世界的に認められて誇りに思う。今後もサービスに力を入れていきたい」と話している。</p>

(12)	<p><b>JR八戸線最後の運行 キハ40系“引退”</b></p> <p>JR八戸線（八戸－久慈間、64.9キロ）で約40年間走り続けた気動車「キハ40系」が3月16日、定期営業運転を終了した。この日は午後2時ごろ、八戸駅発の最終列車が同駅に入線。同日限定の「八戸線キハ40系ありがとう」と書かれたヘッドマークや行き先表示が掲げられ、駆け付けた人々が写真撮影した。同2時24分、JR社員や市内の観光関係者らの見送りを受け、鮫駅へ出発。国鉄時代から、地元住民や観光客らに親しまれてきた車両の最後の運行を目に焼き付けようと、市民や鉄道ファンらがホームや沿道で見送った。</p>
(13)	<p><b>館鼻岸壁朝市再開 早朝のハマに活気</b></p> <p>港町・八戸の朝を象徴する風物詩「館鼻岸壁の朝市」が3月18日、約2カ月半ぶりに再開した。国内最大級の規模とされ、すっかり八戸名物となった「館鼻の朝市」。会場には新鮮な野菜、果物、海産物をはじめ、熱々の総菜、麺類、鍋料理の店がずらり。そのほか、日用品など多種多様な店があり、ピーク時は350以上の出店となる。この日を心待ちにしていた朝市ファンのほか、県内外から多くの観光客が訪れ、人と車で“ハマ”は活気に満ちあふれた。</p>
(14)	<p><b>県南地方の作家ら「南部菱刺し連絡会」発足 ～「南部菱刺し」を世界中に～</b></p> <p>青森県南地方を中心に受け継がれている伝統工芸「南部菱刺し」の認知度を高めようと、同地方の作家や愛好家らが集結した「南部菱刺し連絡会」（中村禮子会長）が3月17日、発足した。連絡会は約20人で結成。会員制交流サイト(SNS)を通じた活動のほか、県内外での体験教室の開催も視野に入れる。はっちで同日、発足式が開かれ、中村会長は「南部菱刺しを世界中に広めていきたい」と力強く抱負を語った。</p>
(15)	<p><b>春を告げるウミネコ 蕪島に続々と飛来</b></p> <p>八戸市鮫町の蕪島に、ウミネコが続々と飛来し始めている。蕪嶋神社によると、2月10日に飛来が始まり、同24日に着島を確認した。現在は約2万羽が飛来し、営巣に備えて場所取りを開始。4月中旬から下旬にかけて産卵が、5月中旬にはふ化が始まるという。ウミネコの産卵期に合わせ、蕪嶋神社の社殿の再建工事は3月23日に中断。9月初旬ごろから再開する。</p>
(16)	<p><b>「山上憶良短歌賞」に八工高生5人入賞</b></p> <p>青森県立八戸工業高の生徒5人が、「第6回山上憶良短歌賞」（鳥取県倉吉市教委主催）の高校生の部で入賞した。このうち、3年梅田優美花さんが最高賞に当たる「憶良賞」に輝いた。同短歌賞は、家族を思いやる歌を多く詠んだ奈良時代の歌人山上憶良にちなみ、「家族」をテーマに募集。高校生の部には、全国から1577首が寄せられた。優秀校に贈られる「学校賞」にも同校が選ばれ、学校関係者は喜びに沸いている。梅田さんの作品〈外国人の母に日本語教えるもカタコト言葉もかわいくて好き〉</p>
(17)	<p><b>2017年青森県人口 自然減過去最多9378人</b></p> <p>青森県が公表した2017年の県人口（10月1日現在）は127万8581人で、前年と比べて1万5100人減少した。このうち出生と死亡に伴う「自然動態」は過去最多の9378人の減少となり、減少率が0.72%と前年より0.06ポイント拡大した。年齢別では、15歳未満の「年少人口」が過去最少の14万57人、65歳以上の「老年人口」が過去最多の40万3170人を記録。少子高齢化の加速が浮き彫りとなった。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(18)	<p><b>八戸特派大使の梶谷さん 国際芸術大使に選出 ～日本の美を海外に発信～</b></p> <p>八戸特派大使の書家・梶谷綾泉（りょうせん）さんが、日本の美術を世界に伝えた芸術家として、国際芸術大使の一人に選ばれた。国際芸術大使に選ばれたのは「モナコ・日本芸術祭」（モナコ公国文化庁など主催）の日本国際芸術交流推進プロジェクトの一環。長年にわたって書道に打ち込む梶谷さんは日本の美を海外に伝え、訴求力もある芸術家の一人として選出された。梶谷さんにはメダルなどが贈られるほか、書に砂で色を付けた作品「華」が、記念切手として発行される予定という。</p>
(19)	<p><b>大相撲夏巡業「八戸場所」 8月開催へ</b></p> <p>大相撲夏巡業の八戸場所が8月16日、3年ぶりに八戸市体育館で開かれることが決まった。主催するデーリー東北新聞社の荒瀬潔社長と、勸進元である青森県議の齊藤直飛人氏（元関脇・追風海）、八戸場所担当親方の千田川親方（元小結・闘牙）が3月9日、市庁で記者会見し、荒瀬社長は「地域の皆さまに日本を代表する本物の国技、伝統を間近で楽しんでもらいたい」と意気込みを語った。力士や相撲関係者など総勢約270人が八戸に集結し、迫力ある取組を披露するほか、わんぱく相撲などで地元住民と交流を深める。チケットは5月7日より発売予定。</p>
(20)	<p><b>ヴァンラーレ八戸 公式ファンクラブに八戸市議会の全議員が入会</b></p> <p>八戸市議会の全議員32人が日本フットボールリーグ（JFL）のヴァンラーレ八戸の公式ファンクラブに入会した。公式ファンクラブは1月に発足。チームは昨年、惜しくもJ3昇格を逃したことから、「今年こそ」という願いを込め、3月上旬に超党派の全議員が入会した。このほど、市議会で入会報告会が開かれ、各会派の代表らがヴァンラーレの細越健太郎代表に議員一丸となって応援することを約束した。</p>
(21)	<p><b>ヴァンラーレ八戸 ホーム初戦白星</b></p> <p>日本フットボールリーグ（JFL）のヴァンラーレ八戸は3月18日、八戸市のダイハツスタジアムで今季最初のホーム戦に臨み、流通経大ドラゴンズ龍ヶ崎を1-0で下した。ヴァンラーレは昨季、年間順位5位で終わり、昇格に必要な成績条件「年間4位以内」に届かなかった。JFLのホーム戦は昨年11月の昨季最終戦以来、約4カ月ぶりで、会場にはこの日を待ちわびた2902人が来場。大歓声を受けたヴァンラーレは前半14分、FW井上翔太郎がヘディングシュートを決めて先制し、この1点を守り切った。</p>